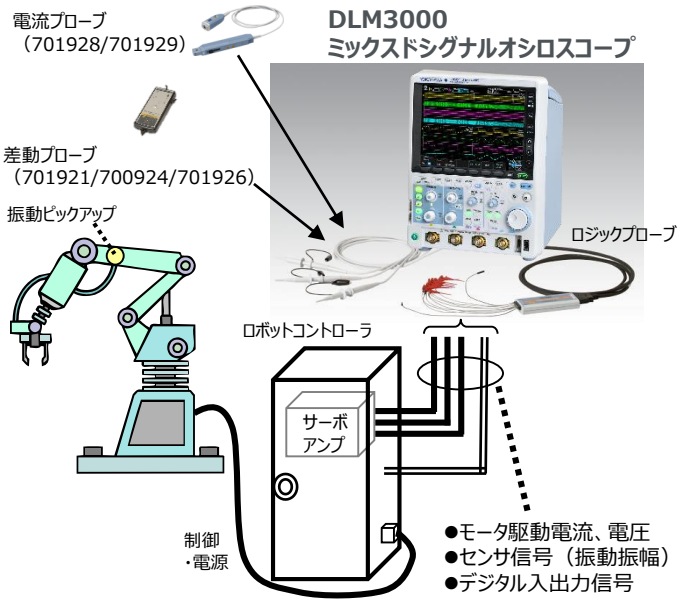
ミックスドシグナルオシロスコープ　DLM3000

ロボット連続動作試験



概要

ロボットの調整後には、通常は連続動作試験が行われます。この試験では、アームや関節の振動や位置ずれ測定が、ロボットの動作速度との関係でデータ収集されます。これらの試験モードを自動的に制御し、データの自動測定や記録を行うことができます。

ポイント

- アナログ、ロジックを一台で測定
- ロングメモリーによる長時間測定
- 統計機能搭載、PCでの後処理が不要
- CAN/CAN FDバス解析機能も搭載（オプション）

特長

■ 2.5MS/sで100秒間の長時間測定
250Mポイントのロングメモリー(/M2オプション）を用いれば、60秒かかるロボットの低速動作時も、長時間測定できます。

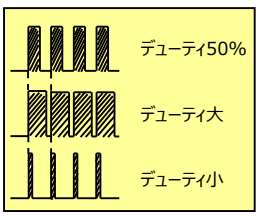
■ アナログ波形と制御信号の多点同時測定
４chアナログ⇔3chアナログ＆8bitロジックの切り替えが可能。アナログ電圧・電流波形とロジックの制御信号を同時に観測できます。

■ PWM波形のメジャーパラメータのトレンド表示
入力信号のパルス幅や周期、Dutyなど、1周期ごとの周期変動を波形と同時にトレンド表示できます。

■ 統計機能を搭載
ヒストグラム表示により、変化やばらつきの様子を視覚的に確認できます。

■ ２つのFFT表示
２つの入力信号のFFT解析表示が可能です。

アナログ信号とロジック信号の同時観測例



PWM波形とパルス幅変動のトレンド表示